

- ◎ 試合規則 全日本軟式野球連盟公認野球規則ならびに本大会規程で行う。
- 試合回数 1日2試合の組合せの場合：5イニング  
1日1試合の組合せの場合：6イニング  
準決勝、決勝については別途定める。
- 試合時間 1時間20分を超えて新しいイニングには入らない。  
ただし、天候、日没等により試合時間を短縮することもある。  
また1時間40分を超えても試合が終了しない場合は時間で終了する場合もある。
- コールドゲーム 1～3回戦：4回10点差コールド  
全試合：5回以降7点差コールド
- 両翼 両翼は、60mとする。ただし、試合会場の形状により変更もある。  
松本市四賀球場はフェンスを設置とする。  
松本市野球場はフリーとする。
- 試合成立 降雨、雷鳴、日没等の天候状態も含め、5回成立以降に適用する。  
5回以前にノーゲームとなった場合、継続試合とはせず再試合とする。
- 雷鳴の対応 雷鳴が聞こえた場合は、即試合を中断し安全な場所に避難し待機する。  
会場責任、審判団にて、試合中断、続行、中止について判断をする。
- 最終回宣告 その回の表攻撃に入る時に【最終回である】旨の宣告が球審から両チームに  
伝達される。たとえ試合時間が残っている状態でも、その回を最終回とする。
- 投球数制限 1人の投手は1日70球以内、4年生は60球以内とする。  
試合中規程投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。  
肘・肩の障害防止を考慮した選手起用を指導者に課すこととする。  
※1試合の中での投手再登板はできないこととする。（障害予防・試合進行）
- 申告敬遠 守備側のチームの監督が敬遠の意思を申告すると、投手が投球せずに打者は  
四球とする。該当打者に投球中でも申告した時点で、四球とする。
- タイブレイク方式（特別延長戦）  
試合終了時に同点の場合は、特別延長戦で勝敗を決する。  
継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、その前の打者を二塁走者とする。  
すなわち、0アウト一塁二塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを  
勝ちとする。勝敗が決しない場合は、更に継続打順でもう1回行う。  
それでも決着がつかない場合は、抽選にて決定する。  
なお、通常の延長戦と同様規則によって認められる選手の交代は許される。
- 投手プレート 5年生女子選手と4年生は、14mプレートを使用可とする
- ベンチ 原則として若番号チームが1塁側。但し、勝利チームが引き続き試合を  
行う場合には対戦相手は空いたベンチに入ることとする。  
従って若番号チームが3塁側ベンチへ入る場合もある。
- 先攻後攻 1回戦は、若番号チームが先攻とする。  
2回戦以後は主将によるジャンケンで決定する。

- シートノック 5分間のシートノックを行う。  
ただし、各チーム最初の試合前とし、2試合目になる場合は行わない。
- 指導者 監督は30番、コーチは29番から26番の2名とする。
- 選手 大会冊子の選手名簿に記載され背番号が付いている選手が試合に出場できる。  
選手名簿に記載されていない選手のベンチ入りは認めない。
- ベンチ入り 選手、大人は指導者3名、チーム代表者、スコアラーの計5名とする。  
特例＝ 選手の健康管理のために母親のベンチ入りを認める。  
松本市野球場、四賀野球場 : 母親2名  
松本市野球場、四賀野球場以外 : 母親1名
- 選手名簿 チーム全員の選手名簿をあらかじめコピーをして持参し、試合毎のオーダー交換時に提出する。(ホームページに掲載の(A)のメンバー表) 全員の選手名簿を提出することにより、交換する市販のメンバー表には、先発選手9名のみを記入して提出すれば可とする。  
補欠選手欄への選手名の記入を省略して差し支えない。
- 抗議 監督または監督代行者のみとする。  
監督または監督代行者以外がベンチより出ることは許されない。
- 選手指示 投手交代 監督またはコーチが選手への指示のためベンチを出て投手マウンドまで行くことは差し支えないが、同一イニングに同一投手のところへ二度行くか、行ったとみなされた場合は、自動的に投手を交代させなければならない。
- 緊急処置 思わぬアクシデント(死球、走塁時の負傷、守備での負傷)等の場合は緊急処置として、臨時代走、臨時打者、臨時守備としての選手を一時交代させることができる。負傷等が治癒した場合には、再び試合に出場することを認める。臨時選手を出場させる場合には必ず球審に申し出ること。
- 特別規定 投手の牽制による暴投がボールデットになった場合、投手板を踏んでいたか否かに関わらず、一つの進塁とする。
- 臨時捕手 イニング交代の時に選手の少ないチームは、捕手が用具を装着している間に、投手の投球練習の捕手を指導者が勤めることを認めることとする。  
必ず球審の許可を得ること。(あまり好ましいことではありません)
- 給水タイム 試合中の長い守備の場合、審判団、会場責任者の判断で給水タイムが必要であれば、タイムを取ることとする。
- 注意事項
  - ・ 相手チームを誹謗するようなヤジは厳に慎むこと。聞くに堪えないヤジについては審判団が厳重に注意すること。応援団は自軍の選手についてのみ行うことが望ましい。
  - ・ ベンチに入る指導者の試合中のサングラス使用については原則として禁止する。  
眼病等でやむを得ない場合は、事前に大会本部に申し出の上、許可を得る。
  - ・ メガホンのベンチ持ち込みは、1個のみとし監督・コーチのみ使用可とする。